

シーズのテーマ: 柔道選手の意識の研究

【研究者】

氏名: 横山 喬之(よこやま たかゆき)
 学部: 学生部
 学科: スポーツ振興センター
 職階: 講師
 連絡先: ※下段、お問い合わせ先をご参照ください。

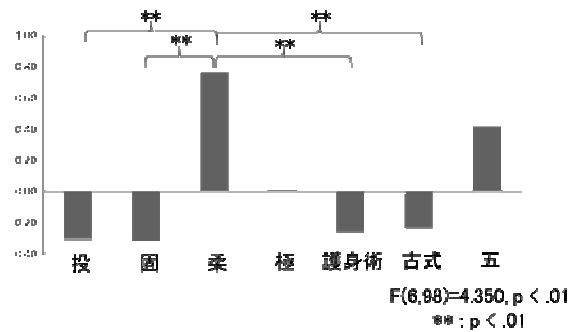


【研究の概要】

柔道選手の柔道に関する意識の研究を中心に研究を行っている。研究には、質問紙を用い、統計処理については、因子分析を用いた分析を行っている。

柔道は競技スポーツであり、生涯スポーツであり、幅広い年齢層を有している。その中でも、主に競技柔道を行う者、形競技を行う者など、様々な形で柔道は行われている。近年、中学校体育において武道が必修化とされているが、柔道人口を見てみると柔道離れが進行しており、競技人口は年々減少している傾向にある。このような現状の中で、柔道を継続的にやっている柔道家はどのような意識のもとに柔道を行い、どのような柔道の良さを見出し、稽古に取り組んでいるのかを研究している。この成果が、今後の柔道人口増加の一助となることを目的として、本研究内容を進めている。

図1: 喜楽因子における柔道形種目別比較

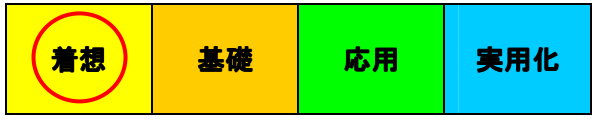


図は、喜楽因子における柔道形種目別の比較を表している。柔の形グループが、投、固、護身術、古式の形グループよりも優位に高い数値を示した。つまり、柔の形を行っている人たちは、柔道を楽しんでいるという事であり、柔の形を行うこと推奨していくことは、柔道を楽しく喜楽に行うために有用なことが推測される。

【研究の特長・従来技術との比較】

現在進めている内容は、柔道選手の中でも形競技者を中心に研究をしている。従来の研究では、形競技者に着目した研究は全くなかった。そこに現在進めている研究のオリジナリティがあり、今後の形競技の発展にも寄与できると考える。

【研究の状況】



【課題、今後の方向性】

今後は柔道競技者の心理的側面を検討するための研究を進めていく。

【用途・効果】

- ・柔道選手の意識を研究することで、今後の柔道人口増加の一助となりえる。
- ・柔道選手の意識の研究が、将来的な柔道選手の心理的側面の研究につながる

【関連資料・特許・文献・参考事項】

1. 松本純一郎, 横山喬之, 垣田恵利, 齋藤正俊, 船越正康. 柔道に関する意識の因子分析的研究-男女併修による必修化武道のための授業実践を通して-. 関西武道学研究 21-1, pp9-18, 2012.
2. 船越正康, 吉鷹幸春, 渡辺涼子, 内村直也, 横山喬之. 2010年世界柔道選手権東京大会における参加選手の戦術とUK分析~日本代表について~. 柔道科学研究, 17, 1-6, 2012.
3. 横山喬之, 小俣幸嗣, 増地克之, 内村直也, 船越正康. 柔道に関する意識の因子分析的研究-日本人柔道選手と欧州柔道選手の比較-. 講道館柔道科学研究会紀要, 13, 183-192, 2011.

お問い合わせ先

摂南大学 研究支援センター

〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17-8
 TEL:072-800-1160 FAX:072-800-1161
 E-mail: SETSUNAN.Kenkyu@josho.ac.jp
<http://www.setsunan.ac.jp/kenkyu/shien/>